

有名ブランド婦人服の縫製会社 自社オリジナル製品も製造販売



ブランド側からの非常に細かい指定にも対応できる技術力がある。

株式会社ほうこう

未熟な技術力で経営不振に陥っていた縫製会社を引き継いで創業。前身会社の不良在庫や負債を抱えながら社全体の技術力の向上に心血を注ぎ、現在は有名ブランド婦人服の製造を数多く手がけている。仕事の端境期対策として日本の伝統生地を使った自社ブランド婦人服製造に乗り出す。

経営不振の会社を引き継いで再興

婦人服縫製の株式会社ほうこうは昭和60年(1985年)の創業。経営不振に陥っていた前身の会社を、取引き関係のあった猿田吉文現社長が経営を引き継いで創業だった。前身会社の経営不振は縫製技術の未熟さが原因で、不良在庫と負債を抱えての困難な事業引き継ぎであった。

現社長夫人の由美子専務は元々個人的にオーダーメイドの洋裁を手がけていたため、引き継ぎ後の事業では自ら現場の陣頭指揮にあたり、従業員の縫製技術の向上につとめてきた。

その結果、ほうこうの縫製技術の高さは著名婦人服メーカーからも評価されるようになり、現在では複数の有名婦人服ブランドの製品の縫製を任せられている。



あきた企業活性化センターの設備貸与制度を利用して導入した電子鳩目かがりミシン。

安定した技術力で仕事受注が復活

一時期は仕事が海外に奪われ、事業の継続が難しいと思われたこともあったが、高級ブランドの婦人服には高度な縫製技術が要求されるものもあり、技術面で安定感のあるほうこうに再度仕事が戻ってくるというパターンが多かったという。専務は洋裁技能士として、また社長は前職が電気設備関係であったため、事業に必要な設備機材の導入の意思決定が早く、あきた企業活性化センターの設備貸与制度を利用して電子鳩目かがりミシンなどをいち早く導入している。

自社ブランド商品の開発に力注ぐ

既製服製造の仕事量は季節的な変動が大きく、従業員の安定雇用のため、仕事の端境期対策に取り組んだのがオリジナルブランドの商品開発だ。

専務は社団法人全国技能士会連合会が認定する「マイスター」(婦人子供服製造)の称号を持っている。全国でも98名ほど、秋田県では専務一人のみという権威のある肩書だ。この称号を生かし、「マイスター由美子」のブランドで、大島紬や秋田八丈、裂織といった日本伝統の生地を使った婦人服を製造販売している。着物生地を使った洋服は従来は高価なものになりがちだったが、既製

株式会社ほうこう

〒010-1638 秋田県秋田市新屋表町2-17

Tel. 018-828-6162

Fax.018-828-0194

<http://www.ho-ko.co.jp/>

社団法人全国技能士会連合会が認定するマイスター(婦人子供服製造)は全国でも98人ほど。秋田では由美子さんだけだ。



マイスター由美子のロゴやパンフレットの制作でもあきた企業活性化センターの仲介を受けている。(写真上) 由美子専務は地場の伝統的織物の生地を使った服づくりに力を入れている。(写真下)

服製造のノウハウも生かし、オーダーメイドと既製服の間くらいに価格設定にしているのも特長になっている。